

月報 2024年 5月31日 No.400

石城山岳会

5月号

四方通信

石城山岳会事務局編集

木地夜鷹山（859m）

鳥屋山（581m）

南会津・唐倉山(1,176m)

長卸山(1,068m)

2024 年5月月例山行「大佐渡縦走」 GB 班

同「佐渡、金北山～金剛山縦走」 GA 班

同「金北山 花を愛でながら縦走」 YB 班

同「佐渡の花を愛でよう(アオネバ溪谷～金北山)」 YA 班

笠石山（765.6m）と巨石群

2024 年 第二回登山教室山行「大滝根山」

木地夜鷹山（859m）

2024年5月2日(木)

秋葉、星(昭)(奈)、永井

西会津にある木地夜鷹山に山菜山行に行ってきました。

長谷川沿いの道を車で行き、登山口に到着。駐車したところにもすでに、「こごみや甘草、アザミなどの山菜がたくさん生えており、期待が高まりました。

天気恵まれ、気温も高かったが、木々がしっかり生い茂っているおかげで日差しは強さはほぼ感じず、時折木立を吹き抜ける風が心地よかったです。

川沿いにサンカヨウがたくさん生えており、快晴のこの日の花びらは真っ白で可愛かったが雨の山行は嫌われる中でこの植物に関してはぜひ雨の日に見たいものだと思います。

長谷川より逸れて進んでいくにつれて足場が悪いところが出てきて、設置されているロープに頼るような道が数か所。

下に気を取られて歩きがちだったが実は頭上にこしあぶらの木があったようで、このあたりからこしあぶらの木が登山道両脇に見られるようでした。

百戸沼までは道があり、問題なかったがここからの急登と、道という道が見当たらず、他の登山者の方が目印にしたのであろうピンクテープと、地図とその方角を頼りに山頂を目指していくことに。

険しい斜面の途中にイワウチワが群生しており、自分が知っているサイズの2倍はあって驚き、寒い地域ほど大きいと知りました。



山頂に近づくころ、やっと登山道とみられるものを確認、段々視界も開けてきて遠くに真っ白な飯豊の絶景が。空の青と飯豊連峰の白のコントラストが美しかったです。

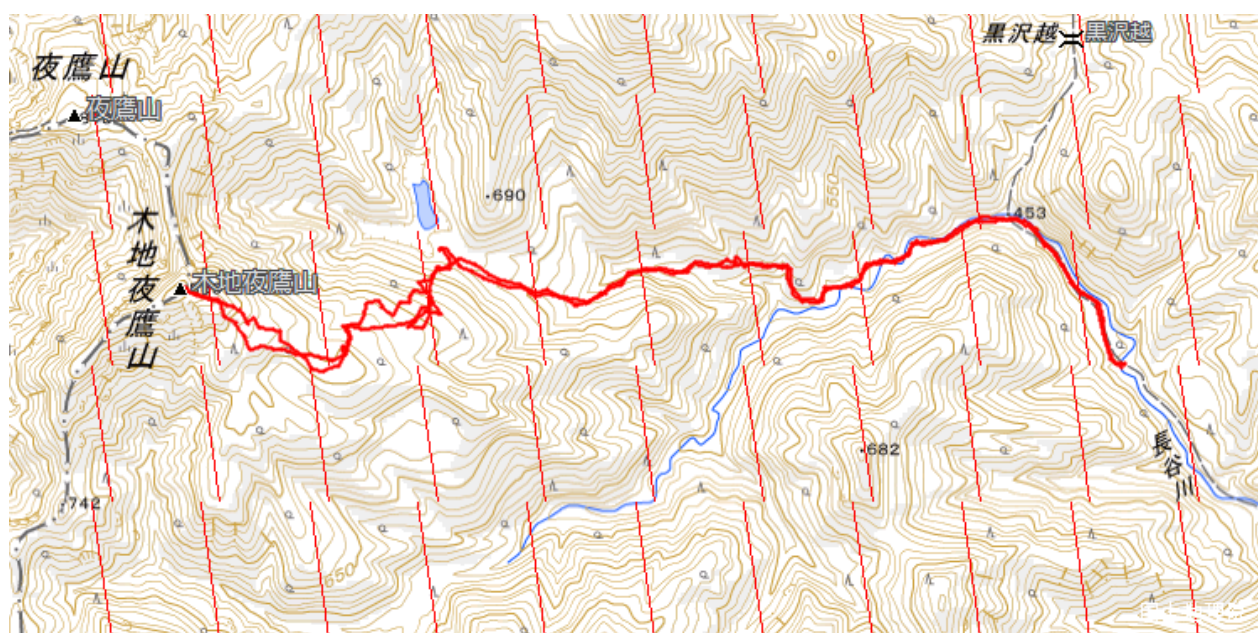
下山も登山道が途中から見当たらなくなってしまいましたが必ず百戸沼に下ることができるとのことと、急登を滑り降りるように下山、最後の方は踏ん張りがきかず何度か尻もちをつくことになり、ストックが必要だと感じました。

始めと終わりのそれぞれ30分程で計5回ずつ渡渉するのですが、絶妙な深さなのと、川底の石がぬめっており、登山靴よりかは長靴が適していると痛感しました。

(文責：永井)

山菜：こごみ、こしあぶら、タラの芽、タカノツメ、ほうの芽、ぜんまい、しどけ、トリアシショウマ他





【コースタイム】

登山口 9:15～木地夜鷹山山頂 12:15～登山口 15:00

鳥屋山 (581m)

2024年5月3日(金)

秋葉、星(昭)(奈)、永井

西会津登山2日目は、鳥屋山に向かいました。西会津のロータサインのオートキャンプ場を出発、荻野駅方面に向かう。川を渡らずに道なりに進むと漆窪登山口。山頂には一等三角点があります。

この日も天候は快晴。見晴らし台まで行くと飯豊連峰がきれいに見えると言われ、心弾ませながら登山開始。

歩き始めてすぐにこの山も山菜の宝庫でした。

イタドリをかじってみると酸っぱく、ノビルはラッキョウのような見た目そのまま、ラッキョウの味がしました。

他にもワラビやゼンマイが至る所に生えていたのでこれは帰り道に採取。



【コースタイム】

漆窪登山口 7:30～第1見晴台 8:30

～第2見晴台 9:20～鳥屋山山頂

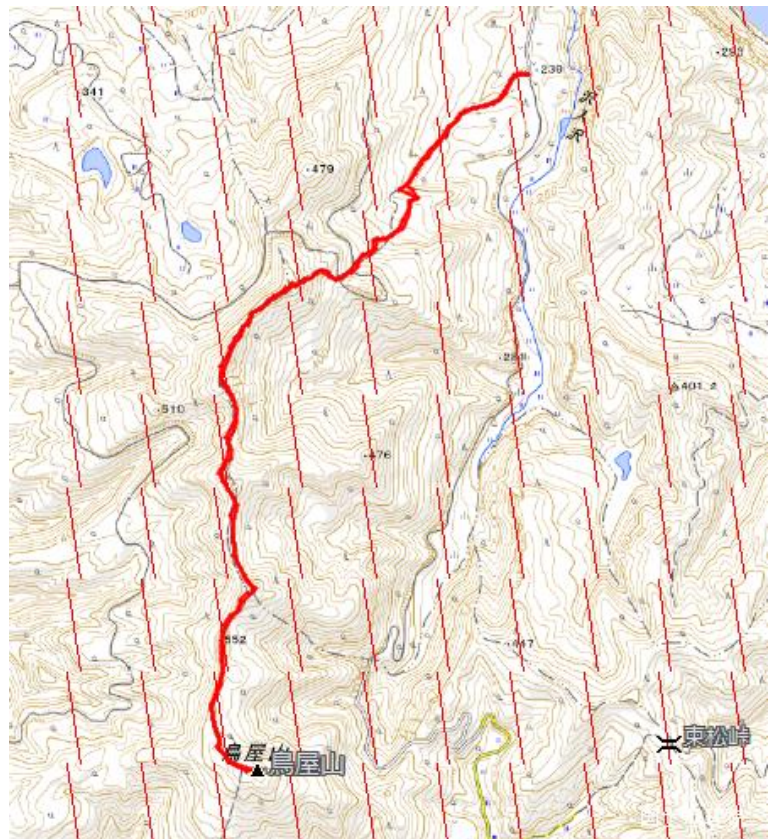
9:45～漆窪登山口 12:00

花もたくさん咲いており、ツツジやホタルカズラ、ヒトリシズカ、トウダイグサ、シロバナタンポポ、チゴユリ等、花の種類が多すぎて記憶が追い付かないほど。

鳥屋山はカタクリの群生地だそうだが、登山に行ったこの日には時期が過ぎておりました。

天気も良く、遠くに飯豊連峰が綺麗に見えていました。

(文責：永井)



唐倉山(1,176m)

2024 年 5 月 5 日(日)

栗崎(透)、秋葉

唐倉山は南会津町の旧南郷村に位置し、道の駅「きらら289」付近から望むことができる急峻な山です。あまり時間がかからないので、わざわざ登りには行きずらく、登り残してしまいます。今回は燧ヶ岳に行く途中に登ってみました。



唐倉山は南会津町の旧南郷村に位置し、道の駅「きらら289」付近から望むことができる急峻な山です。あまり時間がかからないので、わざわざ登りには行きずらく、登り残してしまいます。

今回は燧ヶ岳に行く途中に登ってみました。

国道 401 号線を山口から桧枝岐方面に向かっていくと左側に唐倉山登山口の印がある。

登山口には駐車場が整備されており、見上げる端正な岩山に登高意欲が掻き立てられる。

登山口から広い伐採地を進むと、森の中の谷に入る。さらに登れば急斜面となり、ロープや木の根に掴まって高度を上げる、落ち葉でスリップし歩きづらい。尾根に出て、岩尾根をたどるが、屏風岩、烏帽子岩、トビツキ岩などのロープ等はあるものの気の抜けない場所を通過する。

頂上からは燧ヶ岳から会津駒、大博多山、丸山、城郭朝日山、田代山、帝釈山、駒止湿原など会津の山々が望まれる。

下りはロープの連続する急な尾根を下ることになり、登りよりは良いものの気の抜けない路が続くので、慎重に下る。

(文責：秋葉)



長卸山(1,068m)

2024 年 5 月 6 日(月)

栗崎(透)、秋葉

長卸山は木賊温泉の西に位置する山です。今シーズン最後の山スキーを燧ヶ岳で楽しもうと出かけ、御池駐車場に幕営した。下山してくる人に聞くと雪が少なくて滑るのは無理とのこと。

私は登山靴を持って行かなかったのに、燧ヶ岳はあきらめてジョギングシューズでも登れる長卸山にしました。



木賊地区に入ると長卸山が見えてくる。右側の登山口の表示を入り、西根川の橋を渡ると室山熊野神社があり、そこが登山口。

熊野神社からいきなり急な階段登りきると社殿がある。そこから木の根の出ている尾根を進む。時おり急なところがあり、落ち葉でスリップして苦労する。

ミツバツツジ、ムラサキヤシオツツジ、オオカメノキ、タムシバが咲いている。

頂上には祠があり、木々の間・オレンジのツツジの向こうに、会津駒ヶ岳が白銀に煌めいている。絶景！

下りは木賊温泉への道をたどるが急なうえに落ち葉が積み重なり、すり減ったジョギングシューズでは何度もスリップして尻餅をつく。栗崎は登山靴、スリップはしても尻餅はつかない。道具の違いが明らかになりました。

本日も、中々行き難い山を堪能することができました。

登り：60 分 下り：40 分

車道歩き：15 分

(文責：秋葉)



2024 年 5 月月例山行「大佐渡縦走」 GB 班

2024 年 5 月 18 日(土)・19 日(日)

須藤、太、青天目、二瓶

佐渡島には、国中平野を挟んで、北に大佐渡、南に小佐渡と、二つの山地丘陵がある。今回は、大佐渡主峰「金北山」を含んだ縦走コースを、会員が 4 つの班に分かれて山行。うち当班 4 人を含む 3 つの班は「アオネバ登山口」から大佐渡縦走路に至り、一泊しながら論天山から白雲台までを縦走。

5 月 18 日(土)

ジェットfoilを下船後、タクシーでアオネバ登山口へ移動。登山口には案内板とトイレあり。準備を整え、沢の中の登山道を花も楽しみながら登る。沢の頭が縦走路の「アオネバ十字路」で、そこから県道 81 号方向へ向かう。大回りルートで進むとシラネアオイなど見られ、県道出合いには「金北山縦走路入口」標柱と案内板、トイレがあった。

県道を 300m ほど北へ下った登山口からドンデン池を目指す。途中に避難小屋が見えたので立ち寄ると、なかなか立派で快適そうだった。池から論天山まで放牧地が広がり、正面には草原遠くに金剛山、左右には海が望めるようになる。吹く風も心地よく、大佐渡らしい風景との最初の出会ひ。

論天山で折り返し、尻立山を経由してドンデン高原ロッジ（ドンデン山荘）へ下る。ロッジで山行する 4 つの班が合流。全館満室で、プラネタリウムのある部屋も使用しての宿泊となった。

※ロッジに関するメモ

車でのアクセス可。ただし道は細く、カーブ、急勾配あり。駐車場は少なめ。テント場も併設。ウッドデッキからは眼下に両津湾、国中平野、小佐渡山地、真野湾なども一望。両津港周辺の夜景も良い。日の出もデッキから、日の入りは尻立山の電波塔の少し先まで登れば見える。

寝具は布団で、浴衣あり。手ぬぐい、バスタオル、歯ブラシもあった。部屋に電源、暖房等設備あり。浴室は沸かし湯でカランが 3 つある程度の広さ。石鹸・シャンプー等あり。基本トイレは和式水洗。食堂は宿泊で満員のために入替え制で利用。生ビールほか酒類販売。炭酸等の飲料自販機も。

夕食はスープ、サラダほか、buffet でカットステーキ、チキン、ドリア、パスタ、カレー等多彩好評。

5 月 19 日(日)

ロッジ朝食のおにぎり弁当を持って出発。舗装路を前日の「金北山縦走路入口」まで下り、「アオネバ十字路」を経てマトネに登る。マトネの先は、シラネアオイやカタクリの群落などで花を愛で、小ピーク、ザレ場、池などでは眺めを楽しみ、憩いながら縦走。最後に急登をこなすと佐渡最高峰の金北山。山頂神社の階段を登ると大展望が広がる。自衛隊レーダー跡の建物に視界は制限されるが、素晴らしい眺め。小佐渡の緑に日本海の青。2 つの湾に囲まれた国中平野も一望でき、ちょうど田植え時期で、加茂湖と合せて水面が大きく広がって見える。神社前で昼食を取りながら休憩。わかりにくいですが、三角点は、神社脇祠の裏、くり抜かれた御影石で隠されるようにあった。

金北山から大佐渡スカイライン、白雲台までは主に自衛隊道路を使うのだが、当班 4 人は少し時間と体力があったので、航空自衛隊の巨大レーダー、通称「ガメラレーダー」のある、妙見山の山頂を踏

んでから下山した。3つの班が予定時間内に合流できたので、タクシー利用で港へ向かった。

【コースタイム】

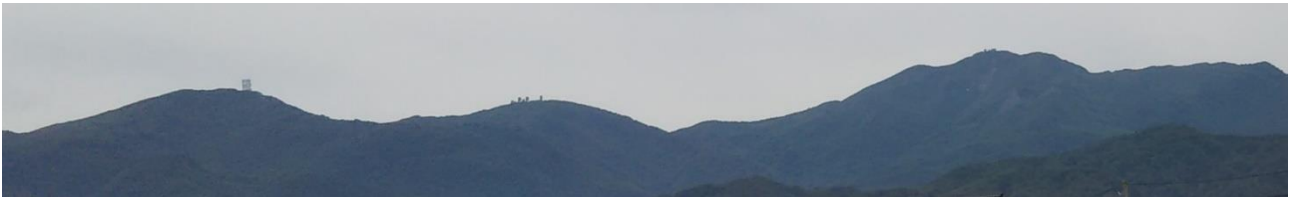
5月18日（土）

9：40 アオネバ登山口→11：30 マトネ十字路→11：55 県道出合い→13：00 ドンデン避難小屋
→13：30 論天山→14：15 尻立山→ドンデン高原ロッジ（泊）

5月19日（日）

6：10 ドンデン高原ロッジ→7：25 マトネ→9：15 真砂の峠→10：55 鏡池→11：05 あやめ池
→11：30 金北山 12：40→13：55 妙見山→14：20 白雲台

（文責：太）



左ピーク構造物が妙見山のカメラレーダー、高い右ピークの構造物が金北山のレーダー跡建物



佐渡、金北山～金剛山縦走 GA 班

チームがつつり A（比佐、佐藤（春）、国井、渡辺（敏）

5 月月例山行で佐渡での登山が計画され、チームがつつり A が組織された。このチームは 4 名、白雲台から白瀬登山口までのコースで計画された。皆さん足に自信のある健脚ぞろいのメンバーとなりました。

《5/18（土）》

ジェットfoilが新潟港を7時55分に出発し、佐渡両津港に9時過ぎに到着。予約していたタクシーに乗り、登山口の白雲台に向かった。話によると、前日まで強風が吹き荒れジェットfoilが欠航したり、フェリーが遅れたりなど、登山ができる状況ではなかったそうだが、今日は風が少し強いが天気は晴れで上々の天気だ。妙見山を目指して歩き始める。妙見山の山頂は巨大なレーダーが設置され、レーザーサイトを迂回するように進む。その先は金北山まで車道を進む。少々味気ない。金北山からは登山道となり、いろいろな草花が和ませてくれる。イワカガミ、シラネアオイ、カタクリ、エチゴキジムシロ等々、次々と現れ見とれてしまう。右には国中平野の田植えの準備がなされたきらきら光る水田や両津湾や真野湾を眺め、左は青々とした日本海を眺めながらアップダウンを繰り返し先に進む。マトネへの急坂を登り一息ついて、今日の宿舎のドンデン山荘を目指した。

【コースタイム】

白雲台 9:53→妙見山 10:30→金北山 11:45～12:07→マトネ 14:58～15:02
→アオネバ十字路 15:34→ドンデン高原ロッジ 16:09

《5/19（日）》

ドンデン山荘の出発予定時間は 8:00 でしたが、6 時ころには他の班は出発しているので、予定を変更して出発時間を 6:30 とした。この日も天気は良い。しかし、昨日に比べていくぶんガスがかかり見通しは若干悪いが、風は昨日より弱く今日も登山日和だ。さわやかな風を感じながら尻立山を通過して、トンデン池で朝食をとる。進むと草原地帯から森林地帯へと変わり、杉の曲がりくねった枝を見ると、風雪に耐え成長する樹木の勢いを見る思いだ。昨日とは少し違う草花が見受けられ目を楽しませてくれる。荷物を置いて雪畑山へ足を延ばし、最後のピークの金剛山を目指す。金剛山に近づくと、ありに注意の看板があり、あちらこちらにありの大群を見かける。金剛山の山頂には鳥居と社があり、お参りして山頂を後にする。立ち止まっているとアリが這い上がるので、急いで先に進む。しばらく下りが続き、下山口の手前で昼食を取る。予定よりかなり早く下山口に到着しそうだ。下山



シラネアオイ



尻立山から金剛山に向かう

口には 12 時半に到着。予約していたタクシーに迎えの時間を早めてもらい、港に予定より早く到着する。他の班の到着はまだなようだ。他の班の到着を待ち、おみやげを買い、おなかを満たして船に乗り込み佐渡を後にした。

【コースタイム】

トンデン高原ロッジ 6:23→トンデン池 6:57～7:13→雪畑山分木 8:59→雪畑山 9:10～9:14
→雪畑山分岐 9:24→金剛山 10:02～10:06→タン平水路 11:26～12:00→白瀬登山口 12:29

(文責：渡辺(敏))



「金北山 花を愛でながら縦走」 YB班

2024 年 5 月 18 日(土)・19 日(日)

ゆるゆる B チーム 赤塚(園)、赤塚(将)、星(奈)、安部、西(由)

5/18～19 の一泊二日で新潟県佐渡市の金北山縦走をしてきました。金北山は佐渡市の西側の大佐渡山地にあります。今回は花を愛でながらの縦走です。天気にも恵まれとても楽しい山行となりました。初日はアオバネ登山口から広葉樹林帯の中を登り始めちらほらと春の花が見えてきました。ですがそれ程多くはなく

花の時期は終わってしまったかと思っていましたが標高が上がる毎にだんだんと花が多くなり群生となっている箇所もあり目の保養となりました。また、途中であまり目にすることが出来ない「大和草」に会うことが出来ました。

論天山や尻立山から両津港がきれいに見えました。で宿泊地のドンデン高原ロッジに到着しお風呂を頂き美味しい夕食をご馳走になり酔っぱらって寝ました。

二日目はロッジを出発しアオバネ十字路で朝食（宿で作ってもらったおにぎり）を取り石花越分岐・天狗の休み場を通して金北山（1,172.1）に着き昼食としました。その後防衛省管理道路を通して白雲台登山口に無事に着き縦走終了となりました。途中でシラネアオイの群生や花卉が白のシラネアオイを見る事が出来ました。

色々な種類の花とその花が群生をなして咲いている様は感動ものでした。また、新潟の山々や遠く飯豊山が見えた時にはまたまた感動ものでした。

【コースタイム】

≪5/18（土）≫アオバネ登山口（9:50）→アオバネ十字路→トンデン避難小屋（13:35）
→論天山（14:08）→尻立山（14:45）→トンデン高原ロッジ（15:05）泊
≪5/19（日）≫ドンデン高原ロッジ（6:04 出発）→金北山縦走路入口→アオバネ十字路
→マトネ（7:35）→真砂の峰→天狗の休み場（10:10）→金北山（12:12～12:52）
→白雲台（14:14）

（文責：安部）



「佐渡の花を愛でよう(アオネバ溪谷～金北山)」YA 班

2024 年 5 月 18 日(土)・19 日(日)

猪狩(由)、菊地、佐藤(幸)、鈴木(彩)、秋葉

佐渡は花の種類の豊富さと密度の濃さで全国有数といわれ、本土では千 m を超えないと見れない花も容易に見ることができます。

1 日目は登山口(300m)からアオネバ峠(767m)まで約5km、梅津川上流沿いを樹林の中緑のシャワーを浴び、川のせせらぎを聞きながらゆっくり登る。ドンデン池・尻立山経由でドンデン高原ロッジ泊。2 日目はドンデン高原ロッジから金北山、白雲台登山口へ。

2 日間ともカタクリ、シラネアオイ、エチゴキジムシロ、サンカヨウなどの群落、多くの花々が迎えてくれたのはパンフレットに紹介されている通りです。「佐渡の花を愛でよう」班なので、一つ一つの花を観察しながら歩きました。その中で特に印象深かった花を記します。



ヤマトグサ 牧野富太郎が発見し日本で初めて学名が承認された植物、その後絶滅したかと思われたが佐渡など日本の極一部だけ見られることが分かった。わざわざ見に行っても小さな花で見落とし、見られないで人も多いという。オシベが垂れ下がり、風にユラユラ揺れる様子はまるで踊っているようでユーモラスです。見ることで感謝です。

その他フッキソウ、ヤマハタザオ、コケイラン、ルイヨウボタン、ウスバサイシン、タケシマラン、ヒメイチゲなど普段見れない花々を見ることができました。

又、スミレ大好き人間にとっては、今年はもう見れないだろうと思っていたスミレスミレ、タチツボスミレ、オオタチツボスミレ、スミレサイシン(紫花・白花)、ヒメスミ、マキノスミレに会えた

のは望外の喜びでした。雪国でしか見れない花、太平洋側でも見れる花でも大きく差込っているので見ごたえがあります。



花を愛でるにふさわしい山行を堪能できた 2 日間でした。
(文責：秋葉)

笠石山（765.6m）と巨石群

2024 年 5 月 21 日(火) 秋葉

笠石山は五十人山のキャンプ場からの登山口の西に位置する山です。登山口は、国道 288 号線都路町岩井沢にから要所に案内板があり、分かり易い。葛尾村のクリムゾンクローバーを見に行くついでに登ってみた。



登山口から亀石、笠石、パワースポットの笠石巨石群までは急登だがよく整備されている。巨石群からは踏み跡程度になる。頂上は林と笹で展望はないが、三等三角点がある。近くには蛇滑石、博打石、船石などの巨石があり、それぞれ案内板があるので一見の価値がある。

笠石山：登山口から
往復約 1 時間
標高：765.6m
三等三角点：笠石山
2.5 万図：常葉
駐車場：数台

(文責：秋葉)

2024 年 第二回登山教室山行「大滝根山」

2024 年 5 月 26 日(日)

参加者：

- 1 班 西村(里)、吉田(揚)、鈴木(勤)、山中、伊藤(晴)
- 2 班 西村(淳)、松本(幸)、志賀、渡邊(敏)、長谷川(裕)
- 3 班 種市、長谷川(公)、竹本、大方、根本(一)
- 4 班 芳賀(恵)、阿部、佐藤(敦)、秋葉、柏村(貴)

予定通り、朝 7 時に水石トンネル駐車場から相乗りにて出発。仙台平駐車場を目指す。

天候は晴れ(少し曇り)。現地では暖かくなることが予想され、ガッツリ着込んでいた私は皆さんのお話を聞き、ジャケット・セーターを脱いで登山を開始。結果、大正解。薄いトレーナーとアンダーウェアになったが、汗で背中がぐっしょりになった(次回の山行にはきちんとしたウエアを用意しよう!)。

山頂までは沢沿いの道が多く、ルートが分かりにくい場所、鎖場もあり緊張しつつも楽しい行程であった。

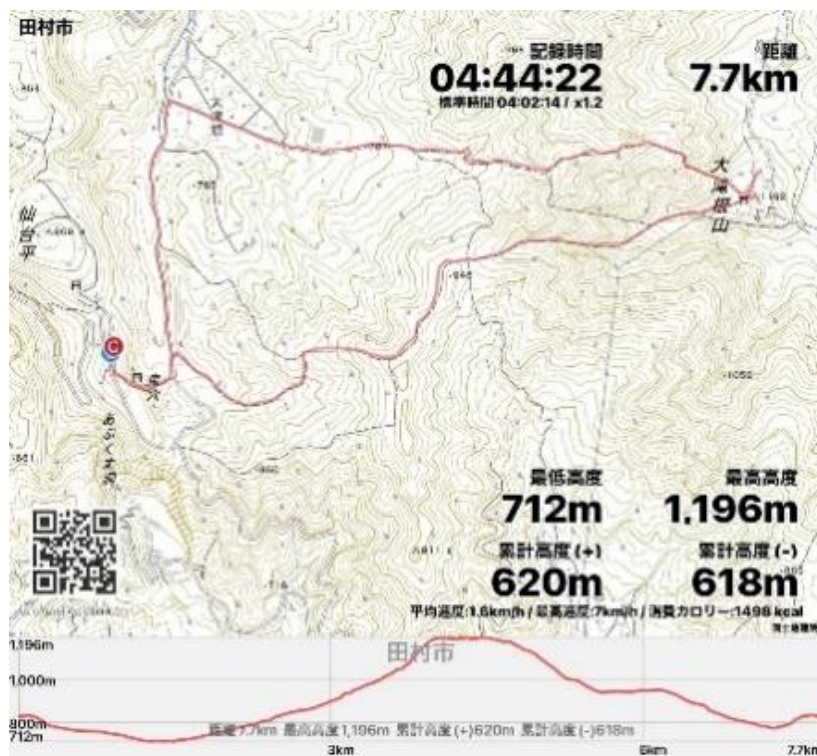
山頂のレーダー基地わきで昼食。三角点は基地の敷地内にあるらしく確認はできなかった。

シロヤシオの花を楽しみにしていたが、すでに散ってしまっており、かろうじて神社境内の木で3輪の可憐な花が咲いているのを見ることができた。

帰りは一気に仙台平駐車場までテンポよく歩き切った(駐車場手前の上りの坂道がきつかった・・・)。

全員の無事を確認し、記念撮影をして水石トンネル駐車場へ戻る。計画よりも早く戻ることができた。

私にとって今回の山行は初めての本格的(?)な登山であったが、なんとか皆さんに遅れることなく歩きとおすことができた。登山の基本である地図の読み方(人工物、分岐点では必ず地図で確認!)も、これからしっかり勉強していこうと思う。



【コースタイム】

- 8:10 仙台平駐車場
- ⇒ 8:36 鬼穴登山口
- ⇒ 10:54 大滝根山山頂 11:39
- ⇒ 12:49 鬼穴登山口
- ⇒ 13:05 仙台平駐車場

(文責：鈴木(勤))



標高：756.6m 三等三角点：笠石山 2.5万図：常葉

